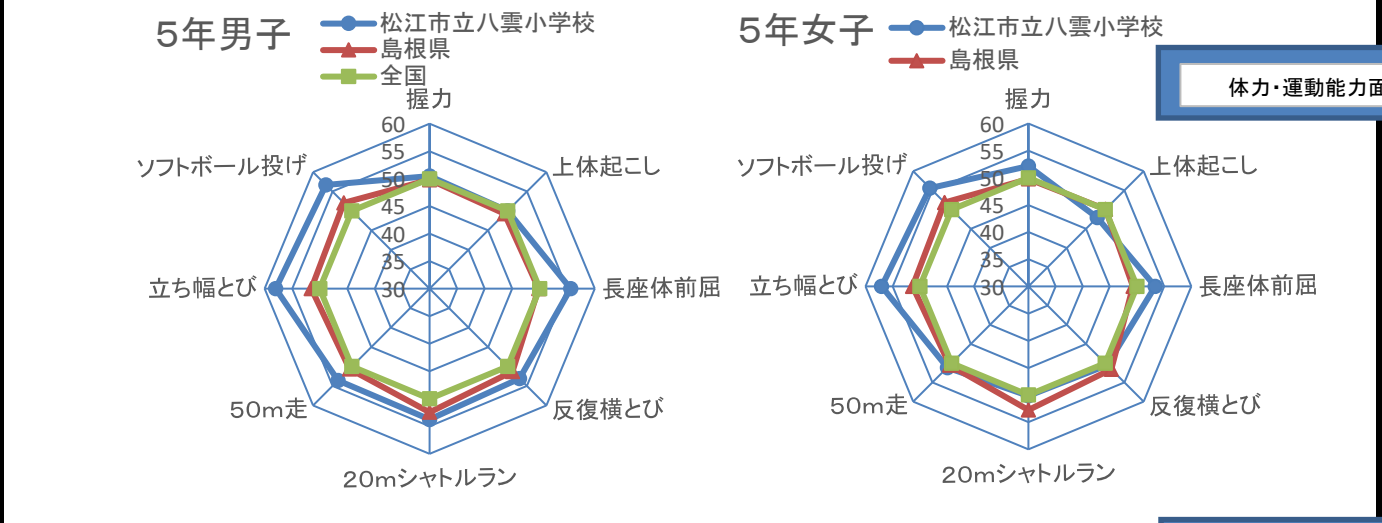
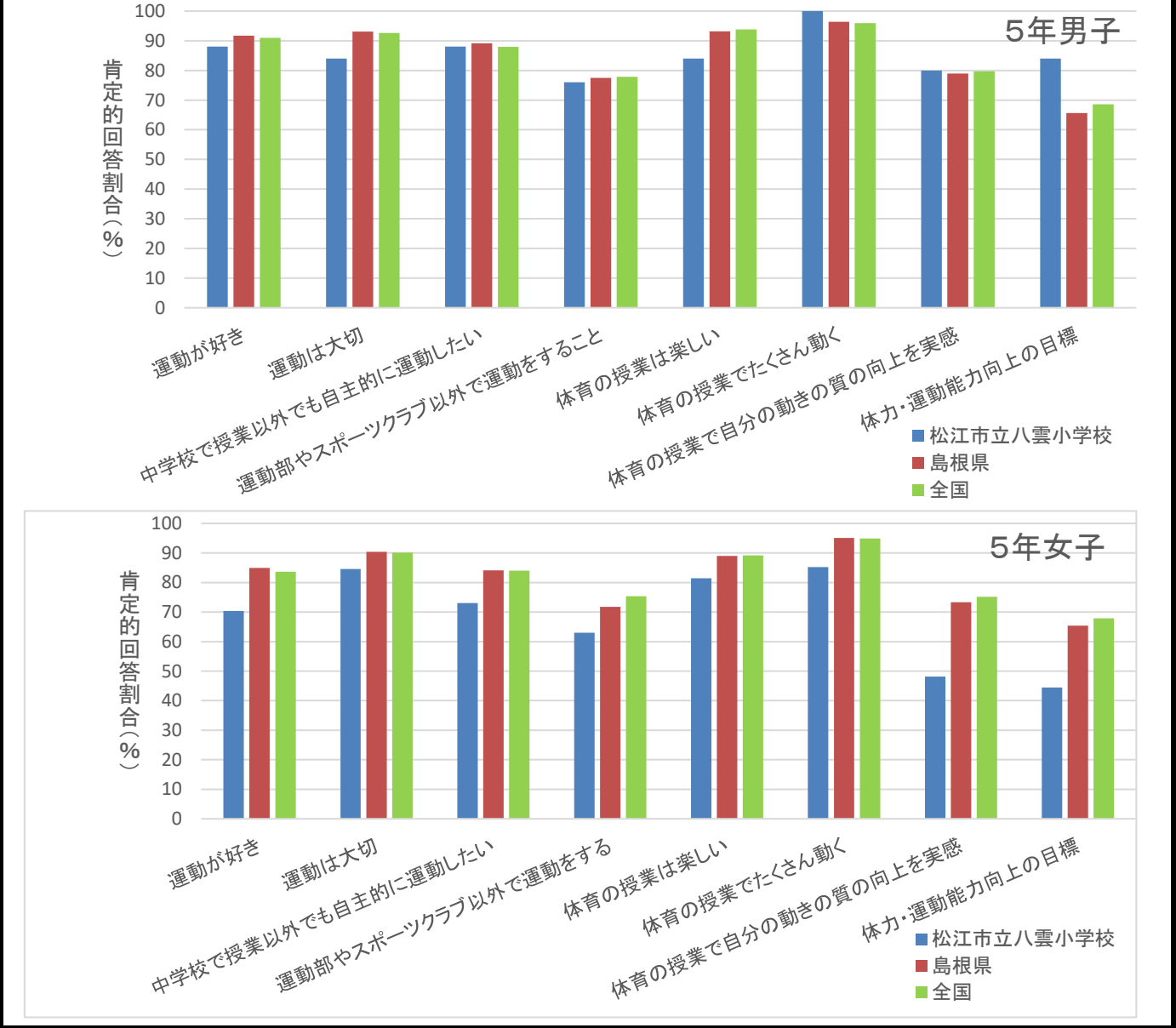


(1) 令和3年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果(全国平均を50としたときの比較)

(2) 調査結果の分析



全国体力・運動能力調査、運動習慣等調査＜意識調査＞の結果
(体力合計点との相関が指摘されているものや松江市教育委員会として注目しているものを挙げています)



①体力・運動能力面
強み ○男子は「上体起こし」以外の7種目で全国平均を上回っている。特に「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」「長座体前屈」が全国平均を大きく上回っている。「瞬発力」「投力」「柔軟性」が強み。 ○女子も「上体起こし」以外の7種目で全国平均を上回っている。特に「立ち幅跳び」「ソフトボール投げ」が全国平均を上回っている。「瞬発力」「投力」が強み。
課題 ●男子では「上体起こし」「握力」が全国平均と同じである。「筋持久力」「筋力」が課題。 ●女子では「上体起こし」が全国平均を下回り、「筋持久力」が課題。
次年度の対策 ○体育授業の前半部に発達段階に応じた筋持久力を高める運動を取り入れる。 ○「投力」はここ数年の本校の課題であったが、取り組みの成果が出てきている。今後も重点項目として取り組んでいく。 ○1学期の体力調査結果を夏休みに分析し、目標を設定し、2学期末にReテストを実施する。

②意識面
強み ○男子では「体力・運動能力向上の目標」「体育の授業でたくさん動く」の割合が全国平均よりも高い。
課題 ●男子では「運動が好き」「運動は大切」「体育の授業は楽しい」の割合が全国平均よりも低い。 ●女子は全ての項目の割合が全国平均よりも低い。
次年度の対策 ○運動の楽しさを実感できる授業をめざす。 ○「わたちの体育」を活用し、自分の目標をもって取り組めるよう工夫する。 ○ICTの活用も積極的に行い、自分の動きが分かるようにする。

(3) 令和4年度の方針【学校全体での取組】

- ①体力向上や体育授業に関する校内研修会等の計画について
・体力テストは経年変化を分析し、県平均との比較で向上種目の増加を目指す。特に女子の体力向上、敏捷性と筋持久力の向上を図る。
・積極的に研修会等へ参加し、校内へ情報を発信・伝達していく。
・松江市体育部の研究に合わせ、ゲーム領域(中学年 テニピン)の授業研究をしていく。
・鉄棒運動については低学年からの身につけさせたい力を明確にし、系統的な指導をしていく。
- ②体育科授業の工夫・改善について
・年度初めの職員会議で体育学習の基盤となる考え方の教職員の理解を深め、授業の統一化及びその充実を図る。
・ボール運動やゲーム領域で、自分たちでルールをつくったり、学年・学級内で対抗戦を実施したりするなど、子ども達が主体的・意欲的に取り組む機会を増やす。
・授業の中でタブレットなどICT機器の活用を積極的に進めていく。
・夏季休業中に体力調査の結果分析し、2学期の体育授業・体育的取組に反映させる。
- ③体育授業以外の活動の工夫について
・ロードレース大会や縄跳び集会を全校で実施する。
・全校共通のマラソンカードを作成し、持久力を高める体力づくりを推し進める。
・委員会活動や学級での話し合いを通して、外遊びを積極的に行うように仕組んでいく。
・運動用具の充実を図り、使いやすく、片付けやすい環境づくりを行う。
- ④家庭・地域、近隣の学校・園等との連携、情報発信について
・子どもたちの一人一人の体力について「限界に挑戦」を通した個別の発信、「体育だより」など学校全体としての情報発信を行う。